

# 生存と直結する芸術

## 脳活動が理論を実証

研究をして、自分の理論が正しいかを証明しようとする。これは、科学者にとっての常套手段である。だが、川人光男さんは、この常套手段を逆手に取り、自分の理論が正しいかを証明するために、自分の脳活動を測定している。川人さんは、自分の脳活動を測定するために、自分の脳活動を測定している。川人さんは、自分の脳活動を測定するために、自分の脳活動を測定している。

神経科学者 川人 光男さん

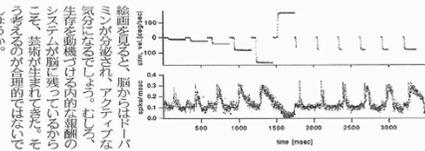
## 美の流儀



川人光男さん。1953年、富山県生まれ。神経科学者、国際電気通信基礎技術研究所（ATR）脳情報研究所長、東京大学理学部卒、大阪大学大学院修了後、大阪大学講師などを経て2003年から現職。小脳の働きを説明する理論モデルを作り、この理論を応用して、人間の動作を見てもわかる自己学習型ロボットを開発。96年に生命科学の独創的研究者に贈られる「塚本賞」、05年に中日文化賞を受賞。研究の傍ら、脳科学の正しい情報発信や倫理的問題を考える「脳を動かす研究会」の発起人代表も務める。

「美の流儀」という理論を構築して、小脳の働きを説明する。川人さんは、自分の脳活動を測定するために、自分の脳活動を測定している。川人さんは、自分の脳活動を測定するために、自分の脳活動を測定している。

「美の流儀」という理論を構築して、小脳の働きを説明する。川人さんは、自分の脳活動を測定するために、自分の脳活動を測定している。川人さんは、自分の脳活動を測定するために、自分の脳活動を測定している。



「美の流儀」という理論を構築して、小脳の働きを説明する。川人さんは、自分の脳活動を測定するために、自分の脳活動を測定している。川人さんは、自分の脳活動を測定するために、自分の脳活動を測定している。

「美の流儀」という理論を構築して、小脳の働きを説明する。川人さんは、自分の脳活動を測定するために、自分の脳活動を測定している。川人さんは、自分の脳活動を測定するために、自分の脳活動を測定している。

「美の流儀」という理論を構築して、小脳の働きを説明する。川人さんは、自分の脳活動を測定するために、自分の脳活動を測定している。川人さんは、自分の脳活動を測定するために、自分の脳活動を測定している。

「美の流儀」という理論を構築して、小脳の働きを説明する。川人さんは、自分の脳活動を測定するために、自分の脳活動を測定している。川人さんは、自分の脳活動を測定するために、自分の脳活動を測定している。

「美の流儀」という理論を構築して、小脳の働きを説明する。川人さんは、自分の脳活動を測定するために、自分の脳活動を測定している。川人さんは、自分の脳活動を測定するために、自分の脳活動を測定している。

「美の流儀」という理論を構築して、小脳の働きを説明する。川人さんは、自分の脳活動を測定するために、自分の脳活動を測定している。川人さんは、自分の脳活動を測定するために、自分の脳活動を測定している。